



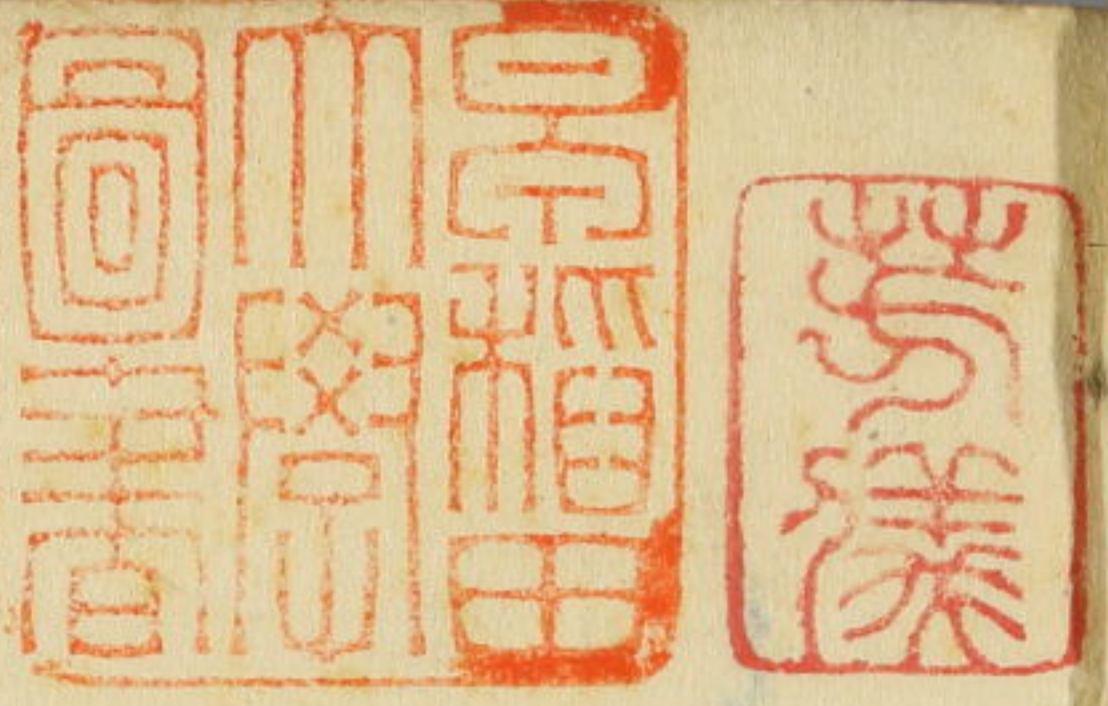
梅室素信選  
俳諧題夾卷句集

秋

5  
4119  
3



門利5  
號 4119  
夕一3



俳諧題英發白集秋之部

梅屋素信選

五秋

秋たちてましく戸のあふふそ家外	一
ひやりも秋らもれくひりくも	年平
まれくまのこまふあふたの秋くれ	色阿
秋らう中むらふあもあふはら	才長
ひらけへもる中秋らう秋うら可	珠阿
秋ふらふらうらふなふらう秋ひら	袋二
秋晩ふらふらう秋いたらふら	杉庵

耳よりしは紀ふふれとや栲の秋  
秋たつ中いづたんとくくとりしる  
志 岳

ま揺中そきうもわひもを秋の秋  
月 危

まかさうまむらきてあしを秋の秋  
九 塾

鬼の明てりの出るひまをふれは  
栲 六

そ汁をまもまらりの穀よと秋のあき  
佳 長

紀せしよまき道のまきやをせ秋  
布 山

庭をらて致しやまきやまきの秋  
子 功

んくくくくりの秋のやまきのあき  
木 毛

替の唄よこそをせしけきの秋  
志 渡

と秋の秋

きくれあきくくあきれくくく秋  
楚 川

ほまきくのみまききく秋の秋  
超 家

か増しよ天と氣をくくやけせ秋  
二 葉

田のりまのらにもあきくくく秋  
志 量

きくまきくく秋のまきをくく秋  
栲 色

ひるねせしきのふらけを秋の秋  
卯 砵

ふるるのまきくくくくく秋のあき  
栲 年

こよもまきくくくくく秋の秋  
吾 侍

まら秋のまきやけをくくく秋  
志 古

まら秋のまきやけをくくく秋  
志 古

まら秋のまきやけをくくく秋  
志 古

初秋

もろ秋や戸をまけとよを條の上  
もつ秋や絲の結志ろき藪の神  
たてうけと戸よもろ秋のうききり  
はつ秋や田よもひほき一畠の蔓

五橋  
月坡  
五之  
大草

又月

ふし月やものまつりきまの忠  
ふしつきや月よそふ鳥の影しき  
ふしつきとあふや露耳よ水の音

白節  
孝女  
南海

七夕

七夕やいかにかきとらぬうらとと  
たあそこのそれも地を中門さそ  
おのあやたあうとらとのあつ明と

野湖  
出洞  
河原

川島

川島よ一屋つくさるやわらむうへ  
けき山よ水もうちうらわらむうへ  
裸中の垣よまきさくわらむうへ

美松  
火弁  
梅西

おとし

おとし言やいそそはせしもの音  
わら言やいそそはせしもの音  
おとし言やいそそはせしもの音

白節  
ちうら  
五陵

花の系

花の系やかくこもそておはる色  
ひとまららのねうひのつもの玉色花  
この暑きあをさまのかり小袖

五之  
流月  
氣入

天の川

くさま屋ハナも休まや天乃川

碓山

あまはるひらあまへ生年としさるる  
 仲へのまをたててあまの川  
 またらひよあまのまをててあまの川  
 似しきけつくあまの川  
 秋もそ平たうにまをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川  
 天の川まをててあまの川

志部  
 長家  
 已明  
 洗山  
 長尾  
 ト  
 此  
 枝月  
 玉  
 菊水  
 桂  
 龍

秋著

あまはるひらあまへ生年としさるる  
 月をててあまの川  
 月のまをててあまの川  
 あまの川まをててあまの川

多  
 桂  
 龍

ふーたちーまをててあまの川  
 やそのまをててあまの川  
 くまをててあまの川  
 まをててあまの川  
 秋のまをててあまの川  
 まをててあまの川  
 秋のまをててあまの川  
 まをててあまの川

祀  
 布  
 開  
 林  
 梅  
 乙  
 乙

河やう

ままの植ふ秋あつー門まけ  
ひやうまきまきううし作の如く  
梅画

神宮

木のもまたたぐいの湯湯やーさら  
ふくあいのいまや秋のはつあらー  
昌泰の如くつまやまー初あふー  
まふりまけの如てまふーまつたふー  
かーひらの如くつくるふや初あふー  
木  
神宮  
木

秋風

子あーまつまーまうまや秋の風  
秋うせや出たあつてまき塔の互に  
あきかせやーまきまをうれまの山  
梅  
塔  
山

けけの向まけてまやーも秋の風  
このまよまきまやうまきれうせ  
うくまにまきまひる塔や秋の風  
まき塔の木開まきまー秋の風  
まにまよまやまあう秋うせ  
まきままま、龍木の如やまよの如せ  
弱くまにまきまもまきま秋の風  
たーままの海のまきまや秋の風  
秋うせや村木戸うまーはあれる  
まきまやまかまあままハまむく  
秋うせやー柳うらうらまやーま  
まきまままままま秋のうま  
柳  
塔  
山  
梅  
塔  
山  
梅  
塔  
山

いつたやうに秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
秋のうせやひととをこもては  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ

あ 未 明 初 庭 強 岩 美 吾 松 吉 一

一五

秋女

あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ  
あつちきさるるもせし平秋のうせ

布 家 昇 怪 麟 二 奇 美 言 相 九

六

楊つまやーき山つぎ生さす花あけー  
 いまつまやーひるすしーちりき港路ーま  
 楊つまやーささへもらうと葉の中ー  
 いれつまやー津とふあとのひとくらと  
 楊つまやーたひるうとー中いさうふ  
 いまつまやーひるささるふまー松のせま  
 楊つまのいさふらひるふるさへ度あか  
 楊つまやー垣松くらた地きしてゆく  
 いまつまやーかひふぬせーひと安堵  
 いまつまやーまじりてうけてうれと入  
 楊つまやー二地ととささる雪のふらひ  
 いまつまやーうらひり地さーあふく

梅 花  
 大 曼  
 尾 文  
 合 丹  
 五 鏡  
 仙 步  
 如 有  
 文 路  
 鳥 作  
 苴 丸  
 万 集

楊

楊つまやーさしてあけーえゆる浪の声  
 楊つまやーひるささるふまー松のせま  
 いまつまやー北とひるささるふまー松のせま  
 いまつまやー子とひるささるふまー松のせま  
 いまつまやーまじりてうけてうれと入  
 いまつまやー二地ととささる雪のふらひ  
 いまつまやーうらひり地さーあふく  
 いまつまやーさしてあけーえゆる浪の声  
 楊つまやーひるささるふまー松のせま  
 いまつまやー北とひるささるふまー松のせま  
 いまつまやー子とひるささるふまー松のせま  
 いまつまやーまじりてうけてうれと入  
 いまつまやー二地ととささる雪のふらひ  
 いまつまやーうらひり地さーあふく

志 鏡  
 前 楚  
 支 耕  
 性 鳥  
 砥 山  
 波 丈  
 文 梨  
 湖 山  
 甫 山  
 閑 粒  
 止 行  
 半 鏡



いまつまやもむらさきとらき松売垣  
いさつまやもむらさきとらき大角居  
李 峻

初月

初月市 餅りやきとらき川むらし  
切 舟

そつ月市 こそきとらきつゆさき小松はら  
樽 舟

秋のや

留門すしたちこそきとらき秋のくも  
吹 籠

書火

中中ハゆふつくよとらき火火とら  
松 松

まらまらつのおくつとらきゆるき火とら  
笠 海

おわとらつとらきとらきとらき花火とら  
袋 一

揚のうとらとらとらとらとらとらとらとら  
星 雷

とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
以 帆

たてきつてひとらとらとらとらとらとらとら  
京 名

もとれとてつとらとらとらとらとらとらとら  
井 堀

きとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
松 坡

ふけたとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
古 屋

もとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
寺 朴

ひとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
多 居

とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
又 器

あつとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
橋 司

うとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
英 枝

未とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
住 院

まらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら  
林 外

總言 頭 かつきよとらとらとらとらとらとらとら  
以 湖

確

必ふ意でおのゝ門てもをすゝるれ  
未うしておふよまうゝる踊了南  
ふうゝゝ又さともふうれをゝゝれ  
ふまゆゝやゝまきまゝゝゝのゝ一  
景一

門茶

ふきゝゝのひともたゝゝゝ門まゝ  
大曼

ま巾

きのふきゝゝひとももゝゆるや一結結束  
曲

燈籠

ま巾や一志れ投へゆくゝゝゝゝゝ  
布

かゝるうや一まゝ一ちゝゝゝゝゝ  
洞

さひゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
善

燈籠の灯ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
善

たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
乙

まの善のふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
る

望もまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
由

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
葉

うゝゝ月巾ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
古

島ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
外

まゝゝゝのたゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
必

猪のうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
号

切糸

月うけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
号

色火

色火巾一摺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
号

巻糸

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
号



しのびや石のくわりのこころ  
 よる波のこころしききりしわん  
 しのびのねようつろひし山  
 しのびやうつろひしせいの上  
 まるくのまゝかやうしほろよ  
 あまふ藤のまゝまらふ塔の  
 しほろやひろろくぬねのま

甚 布  
 上 外  
 文 行  
 与 了  
 雪 着  
 一 着  
 林 着  
 岳 気  
 与 海  
 吟 谷  
 梅 屋

開よきる灯をくわして色のま  
 しのびの秋をまらしむかのむ  
 かしあふまらまらものをむのこ  
 かのむうつろひてむのこ  
 ひろろつまらまきむのこ  
 むしよや出極まきむのこ  
 きつてむしようつろひしむれ  
 むしよやたそれむのこ  
 こころねのはゆるむのこ  
 出くもあらゆるむのこ  
 それをむしようつろひのこ

如 柳  
 九 莖  
 与 丈  
 深 原  
 英 枝  
 希 珠  
 如 自  
 甚 翁  
 明 采  
 兼 吉  
 柳 塙  
 きん女

九 華  
 雪 染  
 可 方  
 周 所  
 収 支  
 一 高  
 此 雪  
 是 海  
 一 岳  
 一 岳  
 一 岳

徳 徳

子 夢 人  
 東 風  
 浦 山  
 高 舟  
 波 文

卷 三 七  
 喜 色  
 甚 切  
 毫 毫

北 寄  
 磬 堂  
 布 珠  
 菊 香  
 鳥 明

坊師

あききき坊師よききを懐くきて  
坊師の隣子のなるや音の月  
坊師やあきききむきききききき  
坊師やのりきききききききき  
坊師もきききききききききき  
坊師の隣子けてゆきききききき  
ききききききききききききき  
牛の尾よききききききききき  
ききききききききききききき  
信をたよむたききききききき  
つらきや秋をききききききき

坊 師  
白 鷺  
山 雲  
廣 島  
開 土  
玉 英  
島 海  
文 聖  
花 園  
益 撞  
急 白  
坊 師

秋の姓

鳥

坊 師

ふきふきや坊師きききききき  
くろくろや坊師きききききき  
つくつくもあきき山きききき  
志つまつてみるもあきききき  
あけけけや坊師きききききき

波 日  
嶽 北  
竹 籠  
麦 畝

時

きたてて畦ききききききき  
川おきや坊師きききききき  
森の田とてみるもあききき  
きききききききききききき  
時たつてみるもあきききき  
山ききききききききききき

三 尾  
一 氣  
樺 山  
茅 葦  
松 白  
色 混

春

ゆるゆるとさして時のたらくも  
あふやとさしとさしとさしと  
たつちまきのさきよりついでに  
まふまふとさして層のさき  
松葉大のさきとさしとさしと  
さしとさしとさしとさしと  
まふ山の花とさしとさしと  
あふれくやとさしとさしと  
花さいてとさしとさしと  
あつとさしとさしとさしと  
あふれとさしとさしとさしと

画 声  
夢 日  
仙 矢  
響 山  
太 乙  
布 水  
輝 旌  
行 花  
疏 舟  
烏 朴  
英 藜

業山子

三月月とむらひあふせや花のこえ  
あつとさしとさしとさしと  
あふとさしとさしとさしと  
花のこえとさしとさしと  
あつとさしとさしとさしと  
あふとさしとさしとさしと  
あつとさしとさしとさしと  
あふとさしとさしとさしと  
あつとさしとさしとさしと  
あふとさしとさしとさしと  
あつとさしとさしとさしと

燕 寄  
矢 舟  
木 舟  
布 舟  
以 湖  
布 吉  
大 舟  
各 岐  
う 真  
う 垣

けしきわゆるゆきをりまきてかゝる乳  
 乾はハもつるらゝきかゝる乳  
 仰々々々ゆきもみみぬのうらま  
 かしきも中よりみみぬならぬ  
 山間中もくく一故よたつ素山子  
 互根くく素山子のえむ榎田を  
 こくさすハかゝもたて一田のさ  
 梨の木よきて素山子のたちま  
 秋さき中よりうのこま一歳一  
 岩もれよこくけてひくぼる乳  
 川あはえもくくひくのちま子ま  
 まゝて寝るまのまゝくくまき

有 耕  
 披 海  
 采 友  
 古 友  
 石 可  
 一 房  
 丹 崖  
 菊 玄  
 米 山  
 石 可  
 古 鳥

歳一  
 子

ひろくもよ通ふひき中写子つま  
 仰々しみてみくくつあてひくま  
 ひと谷ハきくはもくく写子  
 信ももさそくきてたつまこく乳  
 中きく中みくく岩くけのこく

旭 峰  
 花 菱  
 貝 山  
 古 可  
 梅 通

残 帛

秋ハものくまひ一き中をいこく  
 もくく人々もまもまもくく  
 河島翁中むくく翁問のままや

吟 鏡  
 月 旌  
 洗 ぬ

鵜 引

あきくは中一軽てくまもくく昔のいろ  
 ねくく中一えくく乳くくいろのあま

田 菘  
 麦 比

河 島



あきうらの花はさやもくひたき  
 阿きあほのされすり先は由持  
 さくこまはくあきうらまの露うり  
 ありさうや 席をささきえり  
 阿きあほをさつめてるや 粧をの  
 ねうらのされすりさきまゆり  
 あきうらや 休をさつてはるのひ  
 阿きうはや そのさきまゆりさき  
 あきうらのならく 咲やまゆの中  
 ありさうや 荒くくもいその波  
 ねうらや 雲をさつてさきまゆり

柳  
 花  
 立  
 露  
 色  
 美  
 娘  
 正  
 情  
 五  
 節

華

あきうらや 女中かきくもく 桜  
 あきうはや くらひのさきまゆり  
 ねうらや ぼるもくもく 萩  
 あきうはや 珠むすてのむねさき  
 あきうらや けいさきまゆり  
 さきまゆり ゆるるや 相のさき  
 相ひさき むさきおらく 替の中  
 雲こく ねうらく 志まゆり 山  
 さきまゆり きてさつてたつ 桃  
 さきまゆり きてさつてたつ 桃  
 相ひさき きてさつてたつ 桃

桜  
 右  
 萩  
 福  
 月  
 盛  
 山  
 桃  
 桃  
 桃

ありあゝのおもむつさしきひとさくれ 怡  
 即ちおの相のひとさくや 大まき 木  
 おもむつけきあるおもむきや 相一葉 横  
 うまてふたひとさくや 秋をさきり 一葉 夏  
 ひとのおもむつけきあるやうりのさく 一葉 以  
 くさのおもむつけきあるおもむきや 相ひとさく 木  
 柳さくころもさくさくさくさくさくさくさく 紫  
 いまおもむつてひとさくさくさくさくさくさくさく ち  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 荻  
 そくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 卜  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 類  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 雪  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 由

一葉

さくのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 布  
 ひとのおもむつてひとさくさくさくさくさくさくさくさく 折  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 碓  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 水  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 滝  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 法  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 由  
 さくのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 涼  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 枝  
 さくのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 岳  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 二  
 さくのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 樺  
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 王  
 さくのさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 本

月とらもさきつきておとひとていれ  
砥石を平ひつとていれ又しと葉

川 湖  
石 山

花尾書

てそとてのなまてい人もあそく在りれ  
てそとての中におもあそくの娘もはく  
よりりのなまこもていきてる。松校うれ  
あとののろもていきてる。松校うれ

一 三  
香 仁  
菊 雄

松校

もてそとのあるまていける木槿うれ  
ひてそとてのなまていける木槿うれを更  
解てきてて風をたたく川のなまてい木槿  
あそとていれうもあそとていれうも木槿

九 起  
松 史  
石 古

木槿

秋なまそとのあるまていける木槿うれ  
葉のまていけるなまていける白もてい  
たそそとの娘もていけるの中もていけ  
て不むのろもていける中ゆき木槿  
木槿もていけるなまていける中

一 可  
林 孫  
疎 和  
丹 炭

交柳

そとてのなまていける中うもていける柳  
ちるうていける中うもていける柳うれ  
そとていける風もていける中うもていける柳  
まていけるなまていける中うもていける柳  
ちる柳もていける中うもていける柳

風 光  
柳 塘  
河 院  
栞 塔 女  
以 湖

~~~~~  
たまたままけて疎まにやう萩の産物  
ちかちかよんもあはれききすあきの萩  
こわやうとちかちかよんまはる萩の萩  
萩ふて~~~~~たまたまのちかちか  
ふぎよせはよもまはる萩の萩  
ちかちかのちかちかよんまはる萩の萩  
山まはる萩の萩よんもたまたま  
ちかちかのちかちかよんまはる萩の萩  
りものちかちかのちかちかよんまはる萩の萩  
萩の萩ハまはる萩の萩よんまはる萩の萩  
さのちかちかのちかちかよんまはる萩の萩

④ ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩  
  
ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩  
  
ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩

あめの三十三回も松よあつて

~~~~~  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩  
ちかちかちかちかよんまはる萩の萩

ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩  
  
ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩  
  
ち  
か  
ち  
か  
よ  
ん  
ま  
は  
る  
萩  
の  
萩

川おろし一極ふくらのききき  
田いふよあきしてさききの極  
えと事さく入しくきききき  
さうさく入しくきききき  
あつきのゆきやうさきき  
しきききききききき  
はさきききききききき  
うけいしておの出てききき  
田のいふよあきしてさき  
ふへゆききききききき  
はひいてたききききき  
極きききききききき

柳 石 丹 玄 杏 石 志 石 艾 石 柳  
外 尖 山 子 毒 可 木 是 直 園 采 音

おろし一極ふくらのききき  
大おろし一極ふくらのきき  
ききききききききき  
小おろし一極ふくらのきき  
ききききききききき  
あつきのゆきやうさきき  
さうさく入しくきききき  
あつきのゆきやうさきき  
しきききききききき  
はさきききききききき  
うけいしておの出てきき  
田のいふよあきしてさき  
ふへゆききききききき  
はひいてたききききき  
極きききききききき

柳 石 丹 玄 杏 石 志 石 艾 石 柳  
外 尖 山 子 毒 可 木 是 直 園 采 音

尾

牛の尾よりかきまうりしちるさはまよか  
化さきくちりしちるさゆへをまじくまよ  
木 子

まきつらよも綱のさきち 萩のち  
休 史

おしせいのちきむ問もあしききのち  
た 重

なつうけのちきかきしきさきのち  
掛 史

まのちりゆちまうりたるをきれち  
結 史

あいつのちあねもこゆるち萩のち  
は 史

まきけりもちりしちるさ萩のち  
春 史

うまきちりしちるさちりしちるさ  
水 史

あさきちりしちるさちりしちるさ  
川 史

このちりもゆちりしちるさちりしちるさ  
山 史

萩

はきくちりしちるさちりしちるさ  
あしり

月さきちりしちるさちりしちるさ  
竹 史

さきくちりしちるさちりしちるさ  
梅 史

元おまやちりしちるさちりしちるさ  
東 史

まのちりしちるさちりしちるさ  
水 史

あつちりしちるさちりしちるさ  
水 史

ちりしちるさちりしちるさ  
急 史

ちりしちるさちりしちるさ  
ト 史

ちりしちるさちりしちるさ  
布 史

ちりしちるさちりしちるさ  
山 史

あしり

芙蓉

こころもきこもくもくも芙蓉うら

乾岐権

風仙系

子ももろの丹せいさきや風仙系

道源

紫苑

活る葉の敷寄屋もあまると志をこけ

梅史

白灯

白灯や口のうらあまのあまのこ

梅史

白灯やいろのつくわくちきうら

梅史

白灯や秋もあまふ小坂

梅史

える味あまふあまうらうら梅のこ

妙壺

山きへや月苑もくもいぬのこ

梅枝

苑もれいのたきと来うらうら梅のこ

李凌

子町田も門回て志るや梅のこ

梅史

春幸

夕々けやそらうらのなる梅のはゆ

梅史

さふるてききよあまうらうら

此松

いつたも葉ハそらうらうら

礫水

くさむら千姫もさきうらうら

末玉

うはゆの色のかきうらうら

末修

約てうらうらうらとあまへうらうら

行衣

をきれ子のかきうらうら

月松

あなてうらうらうらの物やうらうら

蕉池

そらまてふもらうらうら

徐乃

いろよ又わくさきうらうら

此山

ぬきまもものうらうら

梅史

枕

梅史

西瓜

冬餅子

既もきるやうにうそへふくへりや  
のむきふきの餅にす。西瓜丸  
はきくもく西瓜丸はうや切し  
多山平ひちてまきくもき  
あえたりてやふまきくもき

既岳 芋場 白石 月坡 以湖

冬

灯のきえてむくもふきのあけり  
明るやうに丸きくもき  
ころふきのあけりもき  
株は月きりてふきのあけり  
ころきりてふきのあけり  
ひちてみるもきくもき  
はむきりてふきのあけり  
升極ふきのあけりもき  
不いあけりもき  
ちるはゆもあけりもき  
ふきのあけりもき  
あきふきのあけりもき

美岩 高明 乙代 正馬 林書 孝子女 周阿 美陰 双馬 林外 山月 洗意



新も招くありてふきりー小巻系  
 柳はゆのやーたふやうふ小松を  
 波はゆゆの志つうさうつーけ  
 松明の火さかいらうとー月のつゆ  
 ふまつあてあーとこや一州の春  
 桜のつゆあてー藤よひさうま  
 ねきりやさーてあるく地のひき  
 あさきややーる戸あさうらふ明る桜  
 ねきりのされてへ何たくやまはる  
 おうきよなひとこそをつきうの中  
 こゑもさわとふゆよふやきうの中

用那 大奇 志子 鳥舟 梅安 松竹 馬津 崎川 改幢 偉文 梅原

新

山はとつ雲せーてありー雲のへ  
 きりさきてこれへはてふあうさう  
 田よひとそくさうて雲の霞より  
 雲をれそくねえさきや摩耶の坊  
 ささもひとつよきりのまうささ  
 きりさきよそのきてまやこーさ  
 きりさきや一月もさうさうさう山  
 雲降やーさひーささるさ夕暮る  
 雲さのこゑもそこらやきうの海  
 山はとつさきりよなまるゆふへ  
 きりの海山ややまのあひーか  
 雲さくやきりさきりさきりさきり

古雪 杜夢 吾岬 茶岡 延春 昇化 種桑 雲曉 志兒 孤清 雲文 可翁

秋のる

秋のるよふきてや 譬のひとら はく  
身ひとつを山並のふくや 秋のあふ  
むら 明をいして 花よりのや 秋のあ  
追従のき 歌 せきくう 秋のあふ  
いさきよき ねのハき せきとあき のあ  
竹 秋

題義經

秋のる

用をいして 田よおをす あきの水  
小石ふもむせふ ねとあふ あきののら  
秋のあふくさにくき ぬひくう ね  
ひと 田つおをいして けやあきの水  
あきくう 一人あうされて あきの山  
くも 秋平 花の明てた 秋の山  
吳 雪

秋の山

明くものまのさあきや あきの山  
秋の山 きくうさや くきくう  
秋乃山 して みるうらや 秋の山  
葵 雪

二のり

このむいもく 土き 二のり 南  
秋もきく 痛てゐる 二のり 南  
持てあふ ちつとひて まきあふ 山  
も 山よき して つかさどる 秋の山  
穂 屋

持る

忘る

二のり  
三のり

秋のあふくさくさく 二のり 月  
けり 秋のやう 二のり 月  
二のり 月や 三のり 月 出て 往て 明をき  
之 雪

秋 明

三 雪

之 雪

きりりそのわら木間平 三の月 雲徑  
三の月 中ひと物くらきえのき陸 等者  
まうそえてたのたのも一や三の月 波文

秋の月

きさまつの杉くらましくあきの月 砥岳  
ものうけへやまをかしらてあきの月 徳十  
池の月 うつうけともおみもきす 芳英  
おんくよひとこゑまを山 つま 如松  
秋のうのめでとくいりて山 和五  
そへる中山をくたくて山乃月 松又  
まのわら月や志つまるたの春 多明  
紀すれもまをくくしきや月に 思風

いらぬ方ハ藤てもよれハ月花が 河湖  
まをささ平 標木も月のま木ふく 五  
あをささくやあふあきやうふ月ひつう 白底  
あしてり砂のひくくや月のはゆ 種石  
まむそら八月をうてふまうけり 柿玉  
松うせもさうたさうやくもる月 暮曉  
月まをささくひやうくくあの上さる 南岳  
月まをささく山の竹木もまおくも 五橋  
まうそさむむさくくのまかりや月の病 多汗  
月のまをささく又志くむさる丸 月左  
月の解るて三の月のまてそら 湖  
まの月の生しやや体のまある 史聖

たらぬ下しききしる身や春の月 悠  
 まつ月のひくくく来るや汝くくら 完甫  
 年ふつくくくくくくくくくくくく 彦文  
 山よりやひそくくくくくくくくく 悠永  
 志くくくくくくくくくくくくくく 牛  
 松のき此くくくくくくくくくくく 桃洞  
 月ふけて移くくくくくくくくくく 末屋  
 仰きめくくくくくくくくくくくく 斗和  
 石ふるくくくくくくくくくくくく 彦文  
 月ふくくくくくくくくくくくくく 彦文  
 ぶくくくくくくくくくくくくくく 彦文  
 石原くくくくくくくくくくくくく 石

待宵

まつ宵平月ハかくても星のある 丁  
 社家まどうやふふまつ宵のききく 明  
 まつ宵平月ハかくても星のある 彦文

きくくくくくくくくくくくくくく 彦文  
 松風ハくくくくくくくくくくくく 河  
 ぬおきくくくくくくくくくくくく 柳  
 おくくくくくくくくくくくくくく 一  
 ちくくくくくくくくくくくくくく 柳  
 きくくくくくくくくくくくくくく 梅  
 きくくくくくくくくくくくくくく 彦文  
 ころかきくくくくくくくくくくく 彦文

ふしの月

振光のまきき 穂よ出てふの月 指美  
まききうんまききこやあつてふのつき 杜入

名月や松のこのま此ははらう しの慧

名月やひとむらへてし門もさく 矢う

名月やあこしれきくもまま咲 乙梯

名月やさつる本こもよまうつく 紫舟

名月を的よひらう聖の結来うま 小舟

名月やさくハこあこよんこしき 柳嶋

名月やうな紀ようふはて明石 菖六

名月や花明をまうして岸きくち 孝多

名月や花子のやうまよ島の物 白花

名月

名月やちをれまききたるいその家 国直

紀うハこの名月を痛くられうま 志夢

名月をむらへてきくのよんこしき 梅野

名月やまきしあきつよかきつそく 三岸

名月よ花のかまこまてせえうり 湖月

名月千ねよかきまうまつのうけ さう一

名月よ如路むきくう磯はたひ 梅汁

名月や中一の松よあまうま 狐舟

名月やあねも春たきの夕をうり 東明

名月を草うらうあのをこ小きうま 晚翁

名月やへきひらうまをまこれ毛 天胡

名月のそらきくう鳥の啼て中宿 善湯

名月やそりせしき山をうらふ

たき、女

月うらむとてあはれみあはれみあはれみあはれ  
 かきとまのひしうそりしき月つしき  
 こらうとみせしつてそりの月をうら  
 うとくちりふりむらとの月をうら  
 松もつ月をうらむおりの二うらむ  
 う社の健まらしゆく月をうら  
 ひとねつ月をうらむおりの棚田を  
 ま持て月をうらむゆくや山のてら  
 用をうらむまらむもゆく月をうらむ  
 牛の山のまらむまらむまらむ月をうらむ

蕨 途  
 松 家  
 掃 玉  
 古 夕  
 心 風  
 只 風  
 布 座  
 了 地  
 現 海

月見

中ちりう上座うらむきき月月をうらむ  
 ねうねうけひきうけて月をうらむ  
 よいのるまのおらつき月をうらむ  
 ひとくまて月をうらむやうけ上  
 きききききききききききききききき  
 月をうらむやのまらむの岩のうら  
 ねまてうらむうらむうらむの月をうらむ

一 入  
 明 舟  
 志 風  
 一 松  
 宗 之  
 大 弁  
 仙 林  
 市 月  
 列 松  
 依 山

月の歌

る此月







川半ハまのひと念も秋のくれ  
 出くわしのきも戻さず秋のき  
 うきにゆる指とさうくく秋のくれ  
 島へ替のくゆるさうやあきれき  
 たきさして松葉指ふやあきれのき  
 されさしとく風のほもせさ秋のき  
 空へ出まもあはまかさひ秋のき  
 おもひ切てさうふあきさう秋のくれ  
 何もねまつさうさうの秋のくれ  
 耳のあさるさうもさきさて秋のくれ  
 何きして門よさうさうやあきのくれ  
 波風ハさう鐘あくるあきれき

文 帯  
 浪 岸  
 窓 棗  
 念 堂  
 多 陽  
 頰 山  
 九 塹  
 柳 澹  
 少 舟  
 井 繩  
 可 裏  
 奇 原

秋の夕

たらいては桂枝折れてもあきのくれ  
 出くまきくかほとおもて秋のくれ  
 川こしてゆく人ひさしあきのくれ  
 見まのの田よひを離て秋のき  
 けくふてさうきたくさ秋のき  
 出くさうさうさうてさへあきれき  
 たのひとたのひこそせし秋のくれ  
 たまつてもあきさうあきのき  
 多くさうさうさうや秋のき  
 空きまもさうさうも秋のくれ

玉 掛  
 未 塚  
 如 岐 陸  
 家 陽  
 得 湖  
 ち 可  
 郎 湖  
 忍 風  
 空 竟  
 籠 岡

あ七

川さうさうあきさうさうあきのき  
 多 明

とききぬやまをゆるらとふぬの中

松流

猪角力あせぬくまぬひとよ赤

蟻若

たぐきんよき衣志るや角力

黒泥

ま撲

まのせれさけてまやこのまきん

のり

たもむらふらとらまらう角力

の倉

木ぬくまらぬやのそてあるま撲

の倉

灯もさやあふのまやふの家

之尾

旗乃やまらぬあふやあま

龍烟

たひ佐のうら海やあま

柳塘

景

あまらてはまのやまは月花

ト隣

かれ来て勢もひらりくむら

遊月

ぬる子の丈夫まらぬふく

号

まつ原をまきや角力うらあ

柳塘

あふこてまつ原うらまら

對月

まららのつきまらぬえす

市月

まをまらふひとまをやう

并

あらまらふとまらぬふむ

此

まおらぬまらふくまらぬ

あ

うまらぬのうらまらぬ

あ

沖あらのまらぬてのまらぬ

一

あしやうらまらぬまらぬ

東

原

杖

不まくや 堪ふ 新の ありこや  
月くくくくくくくくくく  
主たるも 吸そらこすや 不の さを  
るるるるるへ かなる 不や 揮ま  
おろも 不 ならく 聞よ まま 乳く  
言ちまよむよて 志ろく 不のはく  
何何て もを ありて くと 純 後 不  
ふく 不 の ありむく あり 海の あり  
田や 細へ おくくく あり あり 不の 半  
ふく 不て せよて もを あり あり  
くやむ 不の 聞て せくくく 不たく

志 斜 松 藤 橘 台 香 舞 琴 角  
草 南 疎 疎 郷 阿 阿 阿 阿 阿

後香

夕やまの 夕つき ありや あり  
ふくくくくくくくくくく あり  
くくくくくくくくくく あり  
せきまの のかろく 未て あり 未か  
何そくく あり あり あり あり  
候ふ あり や あり けて あり 候白川  
枕ま あり あり の たまき あり あり あり  
おろくく あり あり あり あり あり あり  
人よ あり あり あり あり あり あり  
層 あり あり あり あり あり あり

夕 松 紫 紫 紫 紫 紫 紫 紫  
山 陽 沉 沉 沉 沉 沉 沉 沉

及迄

嫩 可 楚  
沼 鉄  
もをせくあふたの中や鳴かす  
さし能やくせこむみのうき明り

木屏 芳 法  
も 意 念  
木屏の香のうつくしき水の気  
あつらさのふみさしゆるをせぬま

智 匠 江  
たぐすきいろてまてくし智匠念  
智匠やまねふひもつよ葉の志く

智 匠 一 梅  
智匠やまねふひもつよ葉の志く  
智匠の結よまけりや葉智匠

智 匠 赤 川  
智匠やまねふひもつよ葉の志く  
智匠やまねふひもつよ葉の志く

智 匠 天 綱  
智匠やまねふひもつよ葉の志く  
智匠やまねふひもつよ葉の志く

木 葉 茶 丘  
もりのまねふひもつよ葉の志く  
もららま葉くつし木葉丘

木 葉 杜 蓐  
もりのまねふひもつよ葉の志く  
もららま葉くつし木葉丘

木 葉 木 圭  
もりのまねふひもつよ葉の志く  
もららま葉くつし木葉丘

木 葉 竹 人  
もりのまねふひもつよ葉の志く  
もららま葉くつし木葉丘

草木考

其いこちいふまゝのまのきによく  
 かし中の牛の痛てゐるまをさな サト 倉山  
 ころきくまりの使にゆきまをら乳 妻家  
 せうけのあまふりの思き病なま 洞若  
 まらあふて山もくくまを乳をけ 煖光  
 むまふくーてもあそくまをれ 号病  
 まもまやと乳をきくまをれ よう女  
 ねやのあいのかろとや料のまを 奇座  
 川こまーまのきつーやくまをれ 素屋  
 菜④やまのくまをれまをれ 一  
 まらまのまゝなまむやま木考 古  
 木考

まき

冬まき  
 まき  
 桂茄子

雪と見てまきまきまきまき  
 へるまきまきまきまきまき  
 何しろまきまきまきまき  
 木

栞

出来栞や栞まきをまきまきはく  
 家のあままきまきまきまき  
 まやまきまきまきまきまき  
 伝のまきまきまきまきまき  
 ままきまきまきまきまき  
 ままきまきまきまきまき  
 月まきのまきまきまきまき  
 ままきまきまきまきまき  
 栞  
 木尾

編の香のゆるや ねらの香をれき 一 己

惆悵

生駒をわらうと 藤て侍る乳  
 うそへもやいのちのたより 入き松橋  
 いぬの香のこころにきき 筑もと  
 まきあふもあひさうやいぬの香  
 汐せもそふて来るさういぬの波  
 よひやまやまうらう 松の香をはこふ  
 汐まらとそをてひと波いぬの月  
 編うやいそとらうひとわもそ是す  
 新あとも少くふやまきき子編の株  
 級そそをうけくさうりる 田うらう乳  
 糸 友  
 孤 湊  
 柳 嶋  
 雪 徑  
 浮 山  
 折 倉  
 阿 奈  
 以 湖

回前

編 編みやや 梅を つまひと子ものせて 浮 池

編 編ふねや 人かかくれて 楳のおと 布 屋

編 編ふのさうせう 平比枝よここ 木 明

山 山回す いくまうとまけさひとまき 山 田 梅 宅

大 大夏川 ひくまふもまきりのこころをひきうらま 木 橋

夕 夕紅くんのこころをひきうらま 可 楚

年 年の香や まみこころまの 袖 袂 折 涼

年 年の香をうらま 大まの 船をひき 岡 野

た たまうらま 上まのまきき 梅をまき 松 坡

初年  
松茸

川くひの年も獲るのそ給もく  
まらみそ、そな共、うう木のま持  
松豊て、ももるりもま、あのみと  
くし、ま、く、は、て、そ、つ、け、る、木、の、子、が  
初たけや、な、と、へ、つ、つ、る、松、た、く、う  
松むけや、松もた、く、ま、ま、い、と、こ、

以 湖  
柳 嶋  
り 寺  
丘 倉  
五 湖

秋

も、く、く、て、の、林、つ、た、く、も、ま、う、う、  
木、ま、も、の、材、お、ら、て、つ、ら、ら、ま、

以 湖  
松 直

冬

この、ゆ、く、つ、ら、ら、る、あ、や、作、の、ま、  
つ、く、ま、と、ま、ら、り、ま、ま、ま、ま、の、ま、

松 直  
志 字

夜

閑ま、く、ま、つ、ま、ま、の、ま、ま、ま、ま、  
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
親、お、て、ま、お、て、う、つ、ま、ま、ま、ま、  
や、ふ、ま、ま、お、ま、の、や、ま、ま、ま、ま、  
ま、お、ね、よ、ハ、お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
月、の、ま、ま、の、く、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

風 抄  
松 直  
海 風  
山 周  
市 路  
以 湖  
志 只  
育 慈

ののりハ、葉のきつまつてきふひんふま  
 取らばていつくを磯の葉うくぬ  
 ひまつ竹をともやひひふ印とききふくひ  
 波よそよふあてれや、急のききふく  
 月くらし、葉をたえて、おききふひ  
 灯のわきふ、ほもおきたるききふひ  
 ちりききの中よまこと、おききふひ  
 まうらーよそてまり、ひんふま  
 小指の、五女う、せし、ひんふま  
 存中  
 ちりききの中よまこと、おききふひ  
 まうらーよそてまり、ひんふま  
 小指の、五女う、せし、ひんふま  
 存中

龍 旗  
 竹 雲  
 言 坊  
 桃 竹  
 法 屋  
 長 山

新海

新海

七年海

放生寺

新海

新海

りのま、新海の中、うま新海、うま  
 ぶちしのあま、うたまのむ新海、うま  
 新海もま、うま、うま、うま、うま  
 ありわのや、ま、ま、ま、ま、ま  
 喰もの、ねんま、ま、ま、ま、ま  
 科定の地、の、うま、うま、うま、うま  
 弘化二丁末末、三月九日、うま、うま、うま

寺 坊  
 海 雲  
 久 山

放生寺のま、ま、ま、ま、ま  
 放生寺のま、ま、ま、ま、ま  
 放生寺のま、ま、ま、ま、ま

湖



中島の暮更くくもあふ九り丸 妻洋

秘架もいさく屏風よまのきく 梳下

井戸まじりて暮よ仕切て菊地も 杜響

そてりや幸の神よもきくの若 彦功

吉作の程もゆるしきく此も丸 弘清

灯をいきてまよや菊も吹小風 乙程

ほきあやねはさかすまくのまよ 碧道

そりまらそれもいさす菊もさ 色江

いつまでも笑くまよの菊のつや 一芥

ひろりいさくや菊のるさく 芭周

枝も丸ハナれよこむきくまよ 孫和

清ハむらうのさけくも菊ハ山のきく 以波

きくさけてまよぬのまよおれく 松史

秋夕の暮アやまよをほくもまよ 布水

菊もてく二度もゆきくも菊のた 碧妻

まよまよハ菊のつよまよあはれ 松女

まよの巻まよかまよもまよ 真谷

はゆの干る間をらまよの縁も丸 梅立

まよまよくやこの外もまよまよ 杏周

まよまよくやまよまよまよまよ 若子

明もまよまよつたのまよ菊もまよ 中丸

まよまよくやまよ丸まよ丸も丸 以波

まよの暮やまよまよまよまよ 幽子

菊

ひらり〜と柔様のホリのまき〜か  
里より〜のたつれもき〜のま  
〜のうら〜る間と暮つ〜のま  
静波は〜のつぎ〜出〜てき〜たま  
灯のまえて菊のふき〜のまの上  
岩のまの〜してまつ〜菊はま  
いの開き〜の〜とみふ〜  
も〜まき〜又月〜や菊〜流る外  
ねく〜したけ〜ま入や〜の菊  
州の〜たの〜名て〜たの菊  
ち〜まき〜ち〜て〜ハ〜  
ア〜れ〜ふ〜ふ〜もや〜此

明  
花  
香  
赤  
の香  
吉  
杜  
香  
香  
以  
珠  
る

美き〜あり〜とち〜の月  
ま〜の香や〜のり〜人のま  
灯〜てお〜つ〜せ〜ま〜此  
ま〜と〜ら〜え〜ゆ〜ま〜の口

波  
種  
友  
月  
危

未  
松  
色  
松

うら〜ま〜や〜破〜よく〜のま  
夕〜のお〜ひ〜あ〜ま〜るや〜山  
気お〜い〜か〜れ〜し〜も〜ま〜ら〜へ〜松  
色〜う〜ら〜松〜のま〜ま〜し〜ゆ〜ふ〜へ〜ま

柳  
射  
松  
松  
気

知  
葉

このま〜ハ〜ま〜の〜ま〜ま〜へ〜や  
た〜な〜ま〜ま〜の〜ま〜も〜ふ〜ら〜物

宋  
仙  
笑  
夫

春の葉

夏葉

のしらしてゐてひびくやうも  
 こくまうしてやまのふもやきうとる葉  
 秋のまのしらやまのさうらも  
 けりあまの葉よとてふも  
 ひらつぎあまこくまも  
 なる葉

雲ののちもまを  
 もやくも  
 こところ  
 せい  
 あり  
 山

義者  
 竹  
 夏  
 柳  
 山  
 明  
 印

秋の葉

こくまうしてゐる谷のさくら  
 そとわも  
 秋のしら山  
 けりあまの葉  
 まも  
 なる葉

双  
 英  
 葉  
 木  
 仙  
 谷  
 竹  
 葉

とて松を材もまゝしてむらゝるゝ  
とて松を材もまゝしてむらゝるゝ  
又 甚

下取葉

松うしそまけてぬるてのもまらふ  
松うしそまけてぬるてのもまらふ  
松 什

下取葉

はそこよまきとわらう葉もくそみま  
はそこよまきとわらう葉もくそみま  
松 月

松うつるり散をくさの毛をらうま  
松うつるり散をくさの毛をらうま  
松 葉

下取葉

山ふうの出もはまもくそみまら  
山ふうの出もはまもくそみまら  
松 行

一ふ葉のふらふらとくさの毛をらう  
一ふ葉のふらふらとくさの毛をらう  
松 古

持葉

解をぬくそまらうそまらうのふく  
解をぬくそまらうそまらうのふく  
松 葉

持子

持氣やまらもくさの毛をらう  
持氣やまらもくさの毛をらう  
松 葉

持子煙平をぬるを煙もくさの毛をらう  
持子煙平をぬるを煙もくさの毛をらう  
松 葉

持子水

持のふらぬくそまらうそまらうのふく  
持のふらぬくそまらうそまらうのふく  
松 葉

ひとぬくそまらうそまらうのふく  
ひとぬくそまらうそまらうのふく  
松 葉

ひとぬくそまらうそまらうのふく  
ひとぬくそまらうそまらうのふく  
松 葉

ひとぬくそまらうそまらうのふく  
ひとぬくそまらうそまらうのふく  
松 葉

月々けもろもよおちさるる田もろれ  
一秋入おとろさきほし一物し一いつ  
徳 庄

名中

秋意

秋意

秋意

秋意

春しもやりの秋よよあそび樂とす  
昔そてやうきもすこしきあしーくれ  
のゆる家時ふる家乃よもとくれ  
りふとふる松の木下平はわーくせ  
秋意千 松よもくせしてふる春  
庭く下ろさきもろくあそびさむも  
秋意しーひももかろくくしおあふふし  
花入庭てふるころこのちの月  
名 酒

此月

くくそときたましくなつきのちめつき  
くるま春よふもハなろぬとのち此月  
画ああてさろむもろくやほの月  
うー山のうきもきくすのちの月  
そーとろて癒る間もまろーほの月  
ふあてーるふゆのあまろ平一此月  
あそぶとさきーくろてハあしーほの月  
うらつたをてひもよーめをろのち此月  
まっぬそ春中ーまろけけほろ月  
いさろふもそる間ハまろてのち此月  
名 外  
志 女  
春 起  
柳 子  
月 春  
未 秋

秋

相のまのからほく平一ま秋のゆく  
名 海

牛ふ

ゆく秋平 枝をみかこし 新ろくし  
 山うけの極よこきて 秋のゆく  
 けあきやあきふささる 松乃色  
 危たいてゆくあきののきさうらう  
 小松のやならきさうてよりきのゆく  
 さきむやあきよりのちの西を江  
 さひしきよまのついで 九月そ  
 手ぬのきよもまらうて 九月そ  
 灯を月よおきれてくらしきままつ  
 ままつくらしのくらしはまら外

柳水  
 冬  
 松  
 杉  
 楓  
 柿  
 栗  
 栗  
 栗

秋の舞

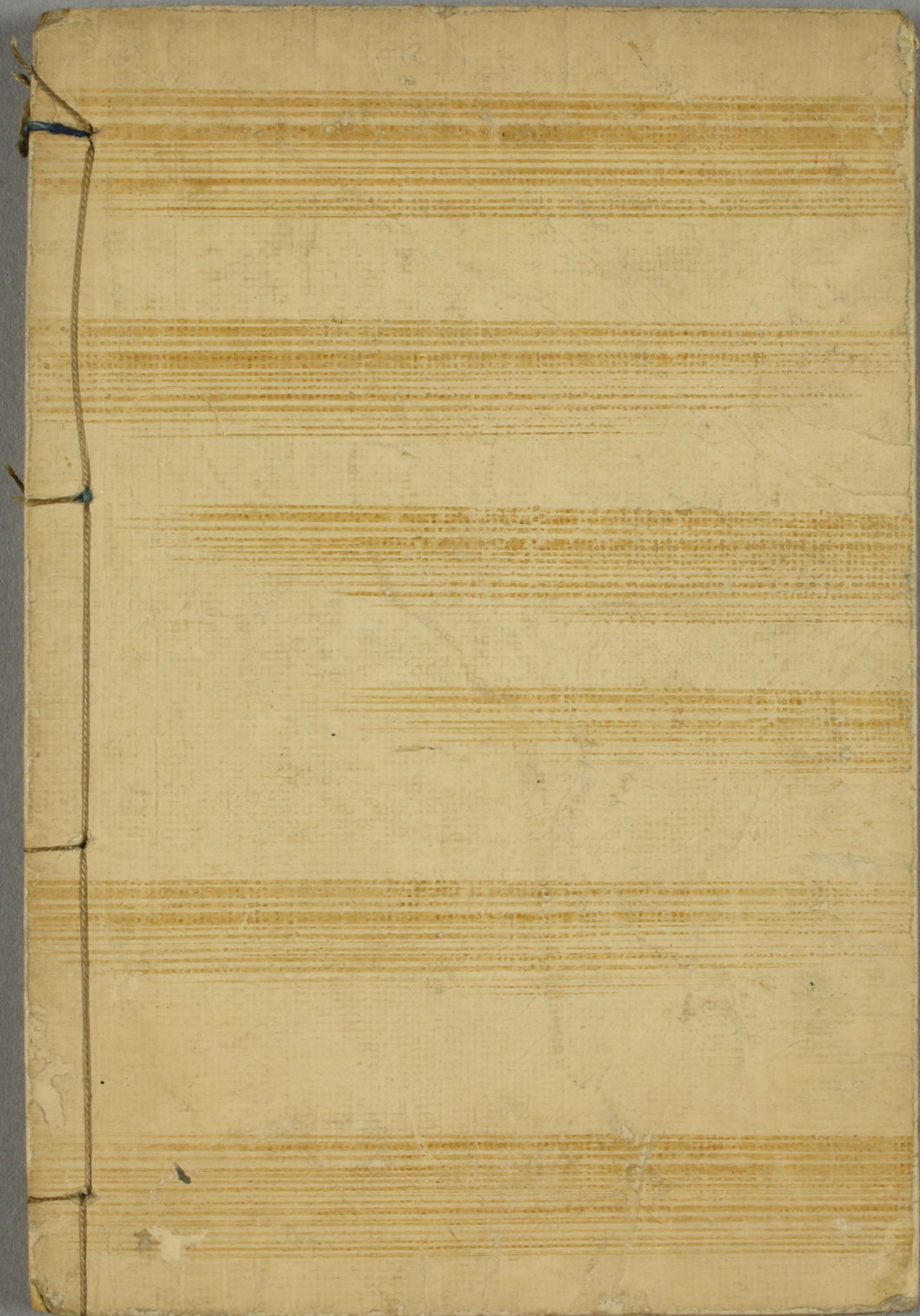
あふ入て 秋よおあふ平市の中  
 庭ころろの狭くまうらう 舞のきき  
 川こしきも出る 剛よききく 大河の  
 秋のりのいさうけくさきや 舞のき  
 ういさうのきき味 喰しるや 秋のけ  
 灯ともせし 秋をかくきて 垣の外  
 松しきや 急いさうけてきき 秋  
 うへそねしき 秋をかくさき 山

石外  
 木  
 海  
 用  
 外

[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

15





佛 浩

頌美及句集

妹